ものづくりのこの地に着任して・・・

千字万感

全日本空輸株式会社
執行役員中部支社長　矢澤　潤子

着任以降、この地域で発見を楽しんでいます。まず、歴史がある。海、アルプス山系の山々、河川を含めたスケールの大きい自然環境がある。おいしい食事、祭りなど生活に根付いた文化が美しく生きている。また日本を牽引する経済力があり、発展した都市がある。この地域の魅力は計り知れないと感じています。国内外のより多くの皆様にこの魅力を発信し、皆様と絆を深め、観光を通じて地域の活性化に繋げていくことが、私共ANAの存在価値であることを改めて感じています。

また、多くの企業の方々とお話をする中で印象深いことは、「ものづくりの企業は人づくりに妥協なし」ということです。時代や環境が変わってもブレずに、精神性を高めようとしている点や有機的に地域と結びついていることに学びが多くありました。

そんな中、8月に中経連の経済視察に参加しました。日本においても人口減少、労働力不足の中で、「人に代わる技術開発」が盛んに開発されていますが、今回は、デジタルイノベーションの先進国であり、物流の自動化が進んでいる北欧・オランダを巡り、企業の成功事例や検証事例など、数多く見学する機会に恵まれました。

ご存じのとおり、航空業界は、空港中心の労働集約型の産業でもあります。ANAグループには4万人弱の社員がいますが、凡そ3万2～3千人は空港で業務に就いています。これまでも自動手荷物預け機、ドローンによる機体の画像解析技術を活用するなど、様々な新しい技術を取り込んでおりますが、人と技術の融合や役割分担の見直しを図りながら、社員にとっても「働き甲斐」に繋がり、お客様にとっても「快適利便性」が向上する開発に繋げていく必要があります。そのためにも日本の自動化は、海外のそれをそのまま輸入するのではなく「日本流に編集」していくことが大切ではないかと感じました。

日本人の繊細な人間関係を成功循環に繋げる発展的、協調的な環境の中で自動化を推し進め、社員の存在価値を高め、生産性向上に繋がるチャレンジをしていかなければ成功に導けないのではないかと感じます。

企業には仕事への誇り、責任感、仲間との友好的な連帯感、環境や時代が変わっても守り続けるべき責任があるということなど、ものづくりのこの地域で学んだように、ビジネススタイルの変貌を迎える過渡期である今、技術開発だけではなく、組織の風土に対しても経営者として責任を曖昧にすることなく、努力と挑戦を続けていきたいと思います。